

園長だより NO101



もうすぐ梅雨入り、園生活でもなにかと制約を受けてしまう時期になります。大人にとっては気が落ち込んでしまうこともあります。子ども達は晴れであり、雨であり、お構いなし活動のフィールドに制限がかかろうと順応して我を忘れて遊びに没頭します。

自分を表現できるベースは

都内の保育園の園長さんとお話する機会がありました。コロナ禍中の数年で試行錯誤しながらも保育内容を見直していったという大人が指示していくこと、禁止する、制限するような言葉や行為をなくそうと考えた、保育者なら誰でも思うことであるが今まで取り組んでいた（おこなっていた）保育内容では何も変わらないと言う。多くの園が昔ながらの保育を踏襲して変化を嫌い現状維持でいいと変わることには消極的な保育士も多くいることも否定できない。

要は子どもの発達（心、身体、思考 etc.）を理解し考え、できるだけ子ども達の意味（思い）をくみ取り、子どもに委ねた保育を考えていくことに注力していった。取り組んでいることが目に見えること、日々関われること、気づきや発見がある、子ども同士の対話があること等々を考え野菜の栽培を選択した。都内の保育園では園庭も手狭である。小さな空間を利用して野菜の栽培を始めた、当然、大人の考えで取り組ませるものではない、子ども達に

問いかけ、考え、思いを伝え合い、子どもながらに調べた（学んだ）知識を使いながら活動していったという。

少量の収穫でも目を輝かせる、年を追うごとに野菜の種類が増える、収穫はごく僅かであるがお米の栽培にも挑戦するようになったと言う。ここまでの取り組みであれば同じようなことをしている園は山のようになる。

とても良い事と思うことは変化（チェンジ）に挑戦できたこと、既定路線の保育から今までの保育を振り返り、課題とした目的（指示、禁止、制限を生活からなくそう）を据えて目的達成の内容を検討し実践につなげたことにあります。

先にあげた変化を嫌う、これでいい、今までのままでいいという体質から抜け出したことが子どもの目の輝きを取り戻すことに繋がった。

その園長さん、にこにこ笑顔で話す「校長先生と話す機会があったけど、うちの保育園の子どもについて、いい子ばかりですよ、子ども達にどうする？ どうやる？ と問うと必ず応答的に返事が返ってくるのが〇〇保育園の子なんですよ、けしてお勉強はできるとは言えないけど授業も深い学びになるんですよ」という園長さんは「こつこつやってきたことが学校教育の中で少しだけ実を結んだ」と言っていた。

「社会人基礎力」

2006年頃、経済産業省から社会人基礎力というものが提唱された3つの能力（12の能力要素）で前に踏み出す力（アクション）考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）などで職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくための基礎的な力を養うことが推し進められていた。社会人になり初期の段階で身につける能力とされるが経験を積み上げてきた方も時には自身の基礎力を振り返り、知ることが必要と考えています。

2018年に3つの視点加わった。3つの視点は「どう活躍するのか（目的）」 「何を学ぶか（学び）」 「どのように学ぶか（統合）多様な体験や経験、能力、キャリアを組み合わせる」ことが3つの視点です。ただ様々な考え、行動も振り返り（リフレクション）がなければただの愚策になってしまうということ。

保育も常に振り返り考え、子どもにとってこれでよかったかなと問い直していかないとより良い保育内容に変化していかない。

ある園の絵を描く活動を例にあげよう。遠足に行き、楽しかった思い出を各々が描く活動がある。先生は自分の主観で幾つかの動物をとりあげ話をした。※ぞう・きりん、特徴的なものを描くことが好ましい、動物園だものと描く題材を大人が決め描かせていく。描いていく過程で 首はどうだった 鼻はどうだったと、逐一 そのものだと思われるよう

2024.5.30

に描かせていく、その後はもうお分かりかと思いますが みんな立派なぞう、きりんを描いた。先生は満足である。これでよかったと自分で言い聞かせる。すると次の年もまた次の年も良いと思ったことは変化することなく続く、もし、ふりかえて考え、描くことが必要な？ 楽しかったことを違う形で表現できたかな？ それぞれの子が何に興味を持ち心が動かされたのだろうか？ と考え内省し同僚と色々話し、自分の思いに変化を与えていれば今後の活動は違っていたはずである。

社会人基礎力の「考え抜く力」は現状を分析し目的や課題を明らかにする力や新しい価値観を生み出す力が定義されている。

保育はビジネスマンの社会とは異なるが常に自分たちの行っている保育に疑問を持ち、振り返り、子ども達の生活を良いものにと考えていかななくてはなりません。

つい最近、5歳児が動物園に遠足にいきました。翌日、空き箱を使い動物づくりがはじまりました。どう表現し活動するのは子ども達が決めるのです。毎年違っていい、子どもと共に決めた事ならとことんやったら良いと思う。

（おおぞら保育園 園長 廣部信隆）

